



令和 3 年 3 月 1 日現在	
人口	14,280 人
男性	6,911 人
女性	7,369 人
世帯数	6,713 戸

松本市となり、もう 50 年

本郷地区町会連合会長 田口 悦久

令和 6 年 5 月 1 日で本郷村が合併して 50 年の節目の年を迎えます。かつて東筑摩郡本郷村であった事を、知らない方も多くなっています。

合併当時は 12 町会でしたが今では 26 町会となっています。町会数で見られる様に、この

50 年間で地区内の大きな変化を感じます。これまでの流れを検証・記録など行い次に向けてのステップにしたいと考えます。

そのため合併 50 周年記念事業企画委員会を発足させました。50 年間の主な写真やイラストも含めた記録を担当するあゆみ編集と、各種イベント事業を担当する各専門委員会で取り組みを開始しました。とりわけ『あゆみ』事業は、頁数と財政状況に配慮し取り組み予定です。

各委員の皆様には事業終了まで就任いただく様にお願ひしています。立ち上がり当初

では全町会長はもとより、各分野の学識者の方などにお願ひしています。取り組みを一層充実するため適任者へのお願ひ、女性の皆さんの参画に努力したいと思っています。皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。

残された 3 年間、本郷地区内の合併 50 周年への盛り上がりも大切と考えています。地元高校生の描いたイラストや絵画、マスコットキャラクターなど使った PR で、町内公民館や福祉ひろば等への掲出も検討したいものです。

盛り上がりを通して、皆様のアイディアもたくさん寄せられたらと思います。

多くの方々の参加で意義ある記念事業にしたいものです。

本郷地区町会連合会では、50 周年記念誌編集にあたり、資料の収集をしています。昔の写真や、本などお貸しいただける方を探しています。詳しくは本郷公民館までお問い合わせください。TEL: 46-15000

本郷地区

山林火災



合同庁舎からの火災の様子



消火活動にあたる消防団員

今から 19 年前の平成 14 年 3 月 21 日、大音寺山の麓の墓地より山林火災が発生しました。ご記憶にある方もいるかと思いますが、火の手は幸いと言つてよいのか、浅間温泉街に下ることなく御殿山からゴルフ場近くまで延焼しました。

上空には消火のためのヘリコプターが飛来したり、自衛隊が出動するなど、延べ 1800 人以上の人員で消火にあたり、鎮火まで丸二日かかる程でした。

原因は、お彼岸参りに来た方の線香によるものでしたが、乾燥と強風により当時戦後二番目の大規模なものでした。



美鈴湖上空付近から番場地方面を空撮
(写真は全て松本地域振興局林務課提供)

今春、君はどんな場所に立つのだろうか。そこがどんな場所であれ、君は元気で堂々とそこに立つてほしい。だって元氣以外に君が今できることはないんだ。

何かがすぐできるほど社会の仕組みは簡単じゃない。百の仕事には百の答えがある。失敗したとしても、それは悪いことじゃない。失敗から多くさん学べるから。うまくいかない事があつたつていい。でも、それで腐らない人であつて欲しい。そう願っています。

社会は、仕事にキビしいものか？それはキビしいに決まつてる。仕事はツライか？勿論ツライ時もある。でも、そんなものは仕事の一部分でしかない。仕事の喜びとは何か？それは自分以外の誰かの役に立っていることがわかる事だ。「人の為だけに？そんなの変だよ」変じゃないんだ。

大人の自分を大切に生きて欲しい。いい友達を作り、信じられるものを見つくるんだ。そして世の中には君達よりもっと大変なのに懸命に生きている人がいる事を忘れないで欲しい。成人おめでとう。

(成人式は 5/9 開催予定)

今
西
古
東

成人おめでとう

合併50周年特別企画

稲倉の半世紀

今から50年前の稲倉は、女鳥羽川にはメダカが棲み、緑の山に囲まれた東筑摩郡本郷村の静かな農村でした。当時は国道254号もなく、自転車が通れる位の道だったそうです。

本郷村が松本市に合併したのは、昭和49年5月のことで、私が小学校へ入学した一ヶ月後のことだったので良く覚えていました。

小学生の頃の楽しい思い出として三九郎があります。子供が多かった頃は三ヶ所で作っていたようですが私達の頃は一ヶ所で作り、お昼は皆でカレーライスを作って食べました。

平成11年夏の豪雨で発生した稲倉峠大崩地籍の地滑りは人家の手前500mまで迫り、後に砂防ダムが建設されました。

昭和51年には三才山トンネル、平成6年松本トンネルが開通、令和2年9月には三才山、松本両トンネルが無料化され、時を追うごとに交通量が増えましたが、一方で路線バスは廃止され地域バスの「ほしみ線」に替わりました。

50年によせて

稲倉のこの50年を振り返ってみると、私たちの生活も大きく変化してきたと感じられます。

温泉街の50年

令和6年5月1日で、本郷村が松本市に合併して、50年ということで浅間温泉街もだいぶ変わりました。

私が浅間温泉に住居を構えたのは、昭和56年です。その頃は、観光地ということもあり、県外のお客様も多く、旅館・ホテルは常にお客様で賑わっていました。夕方になる



松電ストア上浅間店
(横デリシアのパンフレットより)

と着物姿の芸者さんたちがお座敷に向かう姿をよく見かけました。

した。浅間温泉のバスの終点には、松電ストアもあり買い物にも便利でした。いろいろな行事も多く、たいまつ祭り、へそ祭り、三九郎、新そば祭り、浅間温泉夏祭り、そして各町会の行事等盛んでした。今でもたいまつ祭りなどは浅間温

泉の大切な行事となっておりです。

ここ一年はコロナ禍の中、いろいろな行事、催しが出来なくなっています。早くコロナが収まり浅間温泉という素晴らしい温泉の街が賑わう事を願うばかりです。

文教ゾーンの変遷



平成になってから浅間温泉第五町会は大きく様変わりしました。

文教ゾーン

が集中して新しくなり、国体道路は舗装され両側歩道付に拡張されました。

平成7年3月には、松本市で初の、本郷地区福祉ひろば・のぼら保育園・浅間児童センターを併設した施設が竣工しました。

その時、年長児だった娘は旧園舎に通っていました。記念に新園舎の壁に「エルマー」を皆で描き、卒園式だけを新園舎で挙行してくださった事は良い思い出になっていま

す。本郷支所・本郷公民館と



併設された本郷図書館は、児童センターとともに子ども達は大いなお世話になり助けていただきました。

惣社の奉納相撲

惣社町会に引越してきて、12年になります。前に住んでいた所は新しい町会だったため、行事の多さに驚きました。元々夫の実家だったので、惣社に訪れる事はありましたが、住んでみていろいろと知りました。子どもが小さい時は伊和神社のお祭りに呼ばれ、「今年は露店が出ているかな?」と義母が子どもたちを神社に連れて行ってくれましたが、私は行ったことがありませんでした。

ですので、惣社に住むまで、お祭りの時に、「奉納相撲」がある事を知らず、夫の子ども時代にはなかったそうなので、夫も知りませんでした。

その昔はあったようですが、途切れてしまい約40年前に復活して子どもたちの行事になったそうです。

そして40年続いた「奉納相撲」は、去年コロナ禍で中止になって



毎年作り直す土俵の場所

てしまいました。子どもたちが集まり、力闘する貴重な行事だと思うので、再開されにぎやかなお祭りになるよう願っています。

合併年度の思い出



市中陸上大会へ参加した女鳥羽中学校の生徒

本郷村と松本市が合併した年、私は中学3年生でした。その頃は、毎年秋に中学校対抗の陸上競技大会が開

催されていて、各校で選手が選抜され、当日は全校生徒が応援するといった一大イベントでした。それまでは「郡陸」と呼ばれていた東筑摩郡の大会に参加していた女鳥羽中学校でしたが、合併した年から「市中陸上」と呼ばれていた松本市の大会に参加することになったのです。

大会では新たに加わった学校への計らいか、一番最初に入場することとなり、私は旗手として先頭で行進したのでした。その時の緊張感と学校名をアナウンスされた時の大きな拍手は今でも心に残っています。